

理解度&釣れる度100%

丸

マルキュー

優良

餌本



パワーエサ バッグ



バッグに
一冊入れて
おこう!



Contents

- 02 両ダンゴの浅ダナ釣り
- 06 両ダンゴのチョーテン釣り
- 10 ペレット系両ダンゴの浅ダナ釣り
- 14 両ダンゴの底詰めチョーテン釣り
- 18 両ダンゴちょいテク集
- 20 「ヒゲトロ」セットの浅ダナ&チョーテン釣り
- 26 ペレット系両ダンゴの底釣り
- 30 粒もじバラケのウドンセット
- 34 2024実績アリの両ダンゴ爆釣ブレンド

The target period 6月～11月

夏秋号

2025

HERA BAIT POWER BOOK

盛期に数を釣る定番釣法

両ダンゴの 浅ダナ釣り

釣り方の基本

両ダンゴの浅ダナ釣りは、盛期のへら鮒釣りにおいて一番数が釣れる釣り方です。テンポよくエサ打ちを繰り返すスピーディーな釣りで、より多くのへら鮒を釣りあげるのが面白さです。

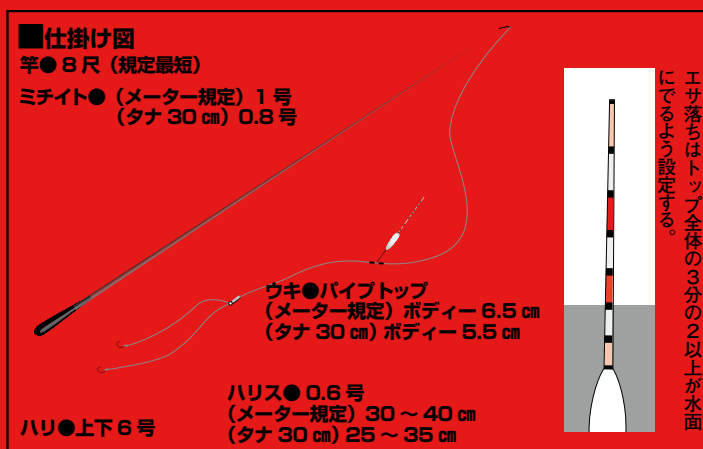
この釣り方において一番重要なのはエサを持たせることです。高活性時のへら鮒はエサに対して強烈にアタックしてきます。このへら鮒のアオリにエサが負けてしまったり、いくらウキが動いてもなかなか食わせることができません。

「エサは持たせているよ」というかもしれませんが、実は肝心のタイミングでエサが抜けてしまっていることが多いもの。強いサワリがでて、いかにもアタリそうなところでアタらないのは、まさにその典型です。

この釣りではとにかくエサを持たせることに徹底して釣りを組み立てることが重要になります。

タックルセッティング

仕掛けは基本的に強い方向でセッティングしてください。弱いセッティングではエサを持たせることが難しくなり、釣りそのものが組み立てられません。特にウキは大きめのものを選びましょう。



実績抜群！現代の定番ブレンド！！

●エサブレンド

「カクシン」500 cc+
「BB フラッシュ」200 cc+
水 200 cc



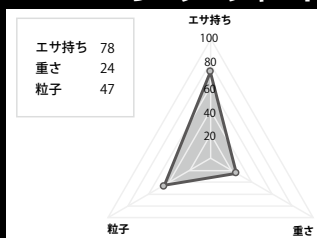
+



+



レーダーチャート



●作り方と打ち始め

「カクシン」500 cc、「BB フラッシュ」200 cc、をエサボウルに入れて軽く混ぜ合わせてから水 200 ccを注ぐ。ムラがないように大きく 20～30 回かき混ぜ、エサがまとまりだしたら基エサの完成。エサに吸水が安定するまでしばらく放置。これを 1/3 に小分けして 10 回ほど押し練りをし、エアーを抜いて使い始める。これでウキが沈没するぐらいエサが持てば OK。持たないようならさらに押し練りで調整する。

エサの大きさとハリ

実寸大



推奨ハリサイズ＝6号

STEP ② タナを浅くする（※タナ規定が無い場合）

タナの規定がない釣り場に限定されますが、タナを浅くすれば落下中のエサへのへら鮎の攻撃が減りますのでその分エサが持つようになります。ですから、タナ規定がない釣り場でエサが持たないときは、シンプルにタナを浅くしてみましょう。またタナを浅くした分、余計な動きが減りますので、カラツンや糸ズレが多いときにもタナを浅くすることは有効なテクニックと覚えておきましょう。

STEP ③ ハリスを詰める

ハリスを詰めると落下中のアピールが減り、へら鮎の攻撃が減るのでエサが持つようになります。先に触れたタナを浅くするのと同じような効果が得られます。特にウキが立ってからなかなかエサがナジまないような場面で試したい対応です。メーター規定ではスタート時のハリス長が30cmと40cmなので、まずは5cmずつ詰めてみましょう。それでもエサが持たないようならさらに5cmずつ詰めてみましょう。またハリスを詰めることで、余計な動きが減りますので、カラツンや糸ズレが多いときにも効果があります。ただし、ハリスを詰めることでサワリやアタリがでなくなったら、ハリスの長さは元に戻してください。

STEP ④ 手水は慎重に……

エサをやわらかくするために手水をするということもあるでしょう。手水と押し練りで調整という表現もありますが、まずはエサを持たせることが優先ですので、押し練りのみで調整します。硬くて持つエサで釣ればそれで問題ありません。強いアタリがでて空振るようならハリスを詰め、それでもカラツンが解消できないとき、濡らした手で押し練りをし少しだけエサのタッチをやわらかくします。やわらかいエサはエサ持ちが悪くなりますし、エサ付けも難しくなりますので、注意が必要です。



両ダンゴの浅ダナ釣り

釣るためのテクニック

STEP ① エサを調整する

元々ネバる素材をブレンドしてエサ持ちのよいエサに仕上げますが、作ったエサをそのまま使うのではなく、打ち始めから押し練りを加え、しっかりエサが持つ状態でスタートしてください。目安としては、ウキのトップ先端ギリギリまでナジむぐらいのエサ持ち加減です。次第に魚が寄ってきますと、徐々にエサ持ちが悪くなります。こういうときは、さらに押し練りを加えてエサが必ず持つように調整します。



写真右側がエサをかき混ぜただけの状態（基エサ）。左上が押し練りを加えた状態。エアーを抜くことでエサが丸めやすくエサが持つようになる。打ち始めから押し練りを加えた状態で使い始めること。

押し練り

手の甲側を使ってエサを押してエアーを抜くのが“押し練り”。エアーを抜くことでエサがまとまりエサ持ちがよくなる。この“押し練り”を繰り返してエサが持つようにする。



ダイナミックな釣りが楽しめる

両ダンゴの チョーチン釣り

釣り方の基本

両ダンゴのチョーチン釣りは、豪快なアタリと深場からへら鮎を引き抜くダイナミックさが面白い、盛期ならではの釣り方です。

この釣り方において一番重要なのは、浅ダナ同様エサを持たせることです。浅ダナより狙うタナが深い分、よりしっかりとエサを持たせなければなりません。タナまで確実にエサを持たせることがへら鮎を厚く寄せることにつながり、それこそ時合ができれば毎回のよう強いアタリで釣れ続きます。そのためには必ずエサを持たせることを強く意識してください。

またオモリを十分に背負う大きなウキを使うことも重要なポイントです。へら鮎の活性が高くなる時季に小さいウキではエサを確実にタナまで届けることができません。エサがタナまで届かなければ釣りになりませんので、大きいウキを使うことが大前提です。

タックルセッティング

仕掛けは基本的に強い方向でセッティングしてください。弱いセッティングではエサを持たせることが難しくなり、釣りそのものが組み立てられません。特にウキは大きめのものを選びましょう。

■仕掛け図

竿●(規定最短) 8 尺
(準山上湖) 15 尺

ミチイト● 1.2 号

ウキ●パイブトップ
(規定最短) ボディー 10 cm
(竿の尺数プラス2cmが基準)
(準山上湖) ボディー 13 cm
(竿の尺数マイナス2cmが基準)

ハリス● 0.6 号
(規定最短) 40 cm と 50 cm
(準山上湖) 45 cm と 60 cm

ハリ● 上下 7 号



エサ落ち後はトップ全体の約4分の3が水面に
でるよう設定する。

重さとネバリのバランスが最高!!

●エサブレンド

「ダンゴの底釣り夏」100 cc+
水 200 cc+
「カクシン」400 cc+
「ガッテン」200 cc



●作り方と打ち始め

「ダンゴの底釣り夏」100 ccをエサボウルに入れてそこに水 200 ccを注ぐ。どろどろにして5分放置してから「カクシン」400 cc、「ガッテン」200 ccを入れる。ムラがないように大きく 20～30 回かき混ぜ、エサがまとまりだしたら基エサの完成。エサに吸水が安定するまでしばらく放置。これを 1/3 に小分けして 10 回ほど押し練りをし、エアを抜いて使い始める。これでウキが沈没するぐらいエサが持てば OK。持たないようならさらに押し練りで調整する。

エサの大きさとハリ

実寸大



推奨ハリサイズ=7号

●エサブレンドアレンジ

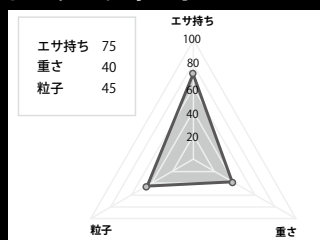
ブレンドの「ガッテン」を「凄魅」に換えてみよう。ネバリ、重さ、粒子感が少し変わることへら鮎の反応も変わるので試してみよう。



「ガッテン」をブレンドした
レーダーチャート



「凄魅」をブレンドした
レーダーチャート



STEP ② エサを大きく付ける

狙いのタナまでエサが届かなければこの釣りは成立しません。ウキが沈没するぐらいしっかりとナジミ幅をだして釣ることを意識しましょう。もう少しエサを持たせたいと思ったら単純にエサを大きく付けてみましょう。ハリに残るエサ量が増えれば、それだけナジミ幅も多くなります。

STEP ③ ハリスを詰める

ハリスを詰めると落下中のアピールが減り、へら鮎のアタックが減るのでエサが持つようになります。ウキが立ってからなかなかエサがナジまないような場面や空振りやスレアタリが多いときに試したい対応です。スタート時のハリス長が長めの設定なので、まずは5cmずつ詰めてみましょう。それでもエサが持たないようならさらに5cmずつ詰めてみましょう。また、ハリスを詰めることでサワリやアタリがでなくなったら、ハリスの長さは元に戻してください。

両ダンゴのチョーチン釣り

釣るためのテクニック

STEP ① エサを調整する

元々ネバる素材をブレンドしてエサ持ちのよいエサに仕上げますが、作ったエサをそのまま使うのではなく、打ち始めから押し練りを加え、しっかりエサが持つ状態でスタートしてください。目安としては、ウキのトップ先端ギリギリまでナジむぐらいのエサ持ち加減です。次第に魚が寄ってきますと、徐々にエサ持ちが悪くなります。こういうときは、さらに押し練りを加えてエサが必ず持つように調整します。



写真右側がエサをかき混ぜただけの状態（基エサ）。左上が押し練りを加えた状態。エアーを抜くことでエサが丸めやすくエサが持つようになる。打ち始めから押し練りを加えた状態で使い始めること。

押し練り

手の甲側を使ってエサを押してエアーを抜くのが“押し練り”。エアーを抜くことでエサがまとまりエサ持ちがよくなる。この“押し練り”を繰り返してエサが持つようにする。



数と型の二刀流！

ペレット系両ダンゴの 浅ダナ釣り

釣り方の基本

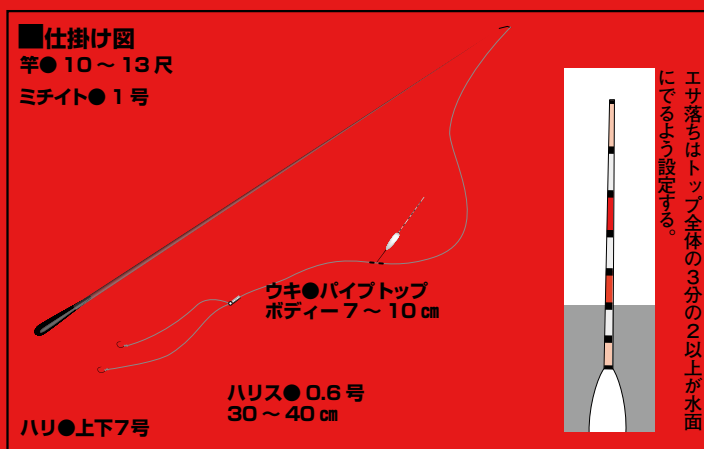
ペレ宙とはペレットエサを配合した両ダンゴの釣り。以前は長めの竿で沖をねらい良型を揃える釣り方でしたが、近年はそれほど長い竿を使わず、エサブレンドだけを変えて通常の両ダンゴ釣りと同じように釣りつつ、ペレットに反応する魚を集めて数を釣りつつ、ときに良型が混じる釣りに変化してきました。

ポイントとしては、大枠は通常の両ダンゴと同じですが、ペレットが配合されているエサなので、エサをできるだけ練らずにセッティングでエサを持たす方向にします。ウキのサイズ、ハリサイズ、ハリス長で調整していきます。

理想的な動きは、比較的静かにナジんでそこから弱めのサワリがでて、ドンと強いアタリがでるパターン。短めのハリスで釣れるときは好時合です。長いハリスで追わせる、高い位置でアタらせる方向の釣りではありません。

タックルセッティング

仕掛けは基本的に強い方向でセッティングしてください。弱いセッティングではエサを持たせることが難しくなり、釣りそのものが組み立てられません。特にウキは大きめのものを選びましょう。



実績抜群の鉄板ブレンド!!

●エサブレンド

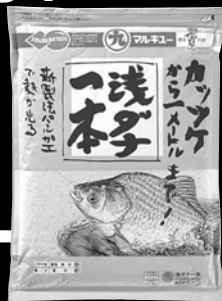
「ペレ軽」500 cc+
「BB フラッシュ」200 cc+
「浅ダナー一本」200 cc+
水 200 cc



+



+



+



●作り方と打ち始め

「ペレ軽」500 cc、「BB フラッシュ」200 cc、「浅ダナー一本」200 ccをエサボウルに入れて軽く混ぜ合わせてから水 200 ccを注ぐ。ムラがないように大きく 20～30 回かき混ぜ、エサがまとまりだしたら基エサの完成。エサに吸水が安定するまでしばらく放置。これを 1/3 に小分けして 10 回ほど押し練りをし、エアーを抜いて使い始める。これでウキが沈没するぐらいエサが持てば OK。持たないようならさらに押し練りで調整する。

レーダーチャート



エサの大きさとハリ

実寸大



推奨ハリサイズ＝7号

STEP ② ウキを大きくする

比較的ダイレクトにタナヘエサを届けたいので、ウキが立つときにもたつく、立つまでの時間が長いときは、ウキのサイズを大きくしましょう。極端に大きすぎるのは論外ですが、どちらかといえば大きめのウキを使うことをオススメします。

STEP ③ ハリスを詰める

タナヘエサをダイレクトに届けたいので、ウキが立ってからナジむまでにエサが捕まりすぎるのはよくありません。ハリスを詰めると落下中のアピールが減るので、あまりサワられずにエサをナジませることができます。スタート時のハリス長が30 cmと40 cmなので、まずは5 cmずつ詰めてみましょう。それでもサワリが強いようならさらに5 cmずつ詰めてみます。20 cmと30 cmぐらいで釣れるときは好時合です。もし、ハリスを詰めることでアタリがでないようなら短すぎと判断します。

STEP ④ ハリを大きくする

へら鮎の ATTACK が強いとき、エサが持たない場面もあるでしょう。基本は押し練りで対応しますが、ペレットエサは必要以上に練ってしまうとまったく開かないエサになってしまいます。そうならないためにもあまりエサをいじりすぎないようにします。そこでエサを持たせるためにハリサイズを大きくします。ハリが大きくなった分エサは持ちます。通常の両ダンゴでは使わないような大きいハリ（8号、9号ぐらい）もこの釣りではアリと思ってください。

STEP ⑤ エサの開きを調整

いくら丁寧に釣っていてもどうしてもへら鮎は上がってきてしまいます。できるだけタナで釣りたいのでエサを丁寧に付けたりしますが、それだけでは対応できないときは「GD」を使いましょう。使っているエサに少しずつ足しながら開き具合を調整します。この対応がよければエサを作り直すときに最初から50 ccブレンドします。



ペレット系両ダンゴの浅ダナ釣り

釣るためのテクニック

STEP ① エサを調整する

元々ネバる素材をブレンドしてエサ持ちのよいエサに仕上げますが、作ったエサをそのまま使うのではなく、打ち始めから押し練りを加え、しっかりエサが持つ状態でスタートしてください。目安としては、ウキのトップ先端ギリギリまでナジむぐらいのエサ持ち加減です。次第に魚が寄ってきますと、徐々にエサ持ちが悪くなります。こういうときは、さらに押し練りを加えてエサが必ず持つように調整します。



写真右側がエサをかき混ぜただけの状態（基エサ）。左上が押し練りを加えた状態。エアーを抜くことでエサが丸めやすくエサが持つようになる。打ち始めから押し練りを加えた状態から使い始めること。

押し練り

手の甲側を使ってエサを押してエアーを抜くのが“押し練り”。エアーを抜くことでエサがまとまりエサ持ちがよくなる。この“押し練り”を繰り返してエサが持つようにする。



晩秋～初冬に爆釣！

両ダンゴの底舐め チョーチン釣り

釣り方の基本

両ダンゴの底舐めチョーチン釣りとは、下バリがナジんだときに底に付く設定で釣る両ダンゴのチョーチン釣りです。上バリは宙、下バリは底という設定で、いわゆる底近辺のへら鮎を狙う釣り方です。なぜこういう釣り方をするかといえば、活性が落ちつきだす晩秋以降、へら鮎は次第に深場へと移動します。底近辺や底にたまりやすくなりますが、この底近辺を宙と底の二刀流で狙う“一度で二度オイシイ”釣り方なのです。このタナ設定も通常の底釣りよりシビアなものではなく、釣り方も通常の両ダンゴのチョーチン釣りと同じ感覚です。落ち込みやナジミ際のアタリを狙いますが、ひとつだけ違うのは、下バリが底に付くことで底釣りのようなアタリもです。ここが二度オイシイところでもあるので、明確にアタリと認識して積極的にアワせてください。

タックルセッティング

仕掛けは基本的に強い方向でセッティングしてください。弱いセッティングではエサを持たせることが難しくなり、釣りそのものが組み立てられません。特にウキは大きめのものを選びましょう。

■仕掛け図

竿●15～18尺

ミチイト●1.0号

ウキ●PC ムクトップ
竿の尺数マイナス2cmの
ボディ一寸

ハリス●0.5号
上55cmと70cm

ハリ●上下7号



エサ落ち
はトップ
全体の約4分の3が水面に
でるよう設定する。

エサ持ちよく適度にバラけてアピール!!

●エサブレンド

「カクシン」600 cc+
「コウテン」400 cc+
「凄麩」200 cc+
水 300 cc



+



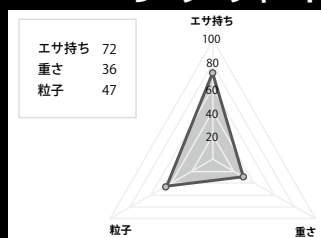
+



+



レーダーチャート



●作り方と打ち始め

「カクシン」600 cc、「コウテン」400 cc、「凄麩」200 ccをエサボウルに入れて軽く混ぜ合わせてから水300 ccを注ぐ。ムラがないように大きく20～30回かき混ぜ、エサがまとまりだしたら基エサの完成。エサに吸水が安定するまでしばらく放置。これを1/3に小分けして10回ほど押し練りをし、エアーを抜いて使い始める。これでウキが沈没するぐらいエサが持てばOK。持たないようならさらに押し練りで調整する。

エサの大きさとハリ

実寸大

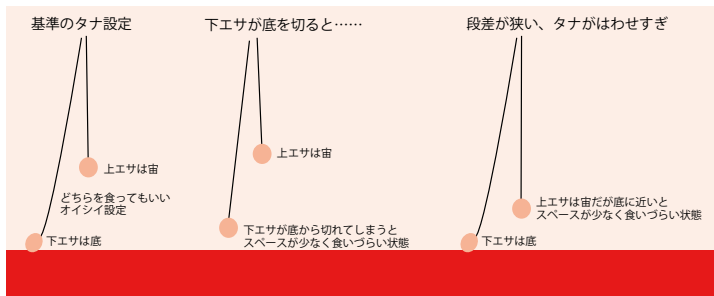


推奨ハリサイズ=7号

●タナ設定とイメージ

通常の底釣りほどシビアになる必要はありませんが、ナジんだときに下バリが底に付くように設定します。下バリだけにタナ取りゴムを付けて打ち込み、トップ先端3目盛りがでる位置に設定します。これでナジんだときに下バリが底に付くタナ設定になりますのでこのまま釣り始めます。釣っていくうちに深くナジ

みすぎたり、底釣りアタリで空振りが目立つようならタナを測り直して調整します。



STEP ② エサの開きを調整

へら鮒がはしゃぎ気味だったり、ウワズリ気味になった場合は「GD」を足してエサの開くタイミングを遅くして対応。この対応がよければブレンドに「GD」を50cc足せばOK。「GD」を入れると、極端に動きが減る場合は元のエサに戻してエサを小さく付けて対応する。



STEP ③ ハリスを詰める

ハリスを詰めると落下中のアピールが減り、へら鮒のアタックが減るのでエサが持つようになります。思ったようにエサが持たないときは試してみましょう。スタート時のハリス長が長めの設定なので、まずは5cmずつ詰めてみましょう。それでもエサが持たないようならさらに5cmずつ詰めてみましょう。また、ハリスを詰めることでサワリやアタリがでなくなったら、ハリスの長さは元に戻してください。

両ダンゴの底舐めチョーチン釣り

釣るためのテクニック

STEP ① エサを調整する

元々ネバる素材をブレンドしてエサ持ちのよいエサに仕上げますが、作ったエサをそのまま使うのではなく、打ち始めから押し練りを加え、しっかりエサが持つ状態でスタートしてください。目安としては、ウキのトップ先端ギリギリまでナジむぐらいのエサ持ち加減です。次第に魚が寄ってきますと、徐々にエサ持ちが悪くなります。こういうときは、さらに押し練りを加えてエサが必ず持つように調整します。



写真右側がエサをかき混ぜただけの状態（基エサ）。左上が押し練りを加えた状態。エアーを抜くことでエサが丸めやすくエサが持つようになる。打ち始めから押し練りを加えた状態から使い始めること。

押し練り

手の甲側を使ってエサを押してエアーを抜くのが“押し練り”。エアーを抜くことでエサがまとまりエサ持ちがよくなる。この“押し練り”を繰り返してエサが持つようにする。



●カラツン対策

空振りがでてることは釣り自体はそれなりに合っている証拠。ちょっとしたことで解決できることも多いので、思いつくことは即試してもらいたい。

①ハリスを詰める

へら鮎の寄りに対してハリスが長いとイトズレなど余計な動きがでてしまい、それがカラツンとなってしまいます。詰める目安は上下5cmずつ。詰めることでサワリやアタリがなくなった場合は元に戻します。

②ハリサイズ変更

エサが持たないことによる空振り、持ちすぎでの空振りの2つが考えられます。前者の場合はハリサイズを大きく、後者の場合は小さくして対応します。どちらも対応が上手くいかない場合は他に原因があると考え、元に戻してから別要因を探りましょう。

③手水を打つ

エサが硬すぎる、持ちすぎることによって起こる空振りはエサを軟らかくすることで対応します。手水（濡らした手でエサをかきまぜること）を打ってエサを軟らかくしていきます。基本的に軟らかいエサのほうがへら鮎は吸い込みやすいので空振りにくくなります。ただ軟らかくしたことでエサが持たなくなると意味がないので練りを加えます。手水と練りはワンセットと考えましょう。

●ジャミ対策

近年、ジャミの動きが活発な釣り場が見受けられるようになっていきます。へら鮎の寄りが悪いときにはその動きが釣りに悪影響を及ぼすことも多いものです。

①ハリを大きくする

ジャミによってエサが必要以上に持たないことが起きます。動きはあるのに肝心のアタリがでるタイミングでエサが持たずにアタらない。そんなときはハリを大きくしてエサ持ちを確保します。

②ハリスを詰める

①と同様の理由でハリスを詰めることでエサ持ちをよくします。ジャミに対してはエサでどうこう対処するのではなくセッティングのほうを煮詰めていく対応が求められます。

ちょいテク集

●最近の傾向

放流量や放流されるへら鮎の型により、釣り方も年々変化しています。以前は、長めのハリスで高い位置の魚をねらったり、エサを追わせて釣る釣り方が主流でしたが、ここ数年はナジませてタナで釣る傾向にあります。エサをナジさせるにはエサそのものも重要ですが、それなりのセッティングが求められます。ウキ、ハリス長、ハリサイズなどいずれもナジさせる方向を意識してください。傾向としてウキ＝大きめ、ハリス＝短め、ハリ＝大きめとなります。

●アタリが減ったとき

それまでよく釣れていたのに急にアタリが減って釣れなくなることはよくおきます。へら鮎の寄りが減った、ずっと同じパターンに飽きたことが要因で何かしらの刺激を与えます。

①生麩パラパラ

使っているエサに生麩をパラパラ振りかけることでエサのアピールが増し刺激を与えることができます。粒子の粗い「凄麩」を使えば開きでアピールしますし、あるいは細かい「浅ダナー本」でエサを硬く目詰まりさせてピンポン気味に反応させるなどのパターンがあります。

②ハリス段差

ハリス段差を広げることで2つのエサの落下にタイムラグが生じてこれがアピールにつながります。通常 10 cm 段差で釣っているところを 15 cm 段差にして反応を見ましょう。

③ハリサイズを小さくする

ハリサイズを小さくするとハリの重さが軽くなります。これによりエサの落下スピード変わるので、それがへら鮎へのアピールにつながります。ハリを小さくするだけでアタリが復活することは結構ありますので、必ず試したい対応処方です。

両ダンゴで釣り切れないときが出番

「ヒゲトロ」セットの 浅ダナ釣り

釣り方の基本

「ヒゲトロ」セットの浅ダナ釣りは、両ダンゴで釣れそうでなかなか釣れないときに有効な釣り方です。ダンゴエサに興味は示している（サワリはある）が、混雑によるプレッシャーや食いがイマイチで、ダンゴエサそのものを食わないとき、ウキの動きでいえばサワリがあるのに食いアタリがでにくいときがこの釣り方の出番です。

この釣りは、バラケエサに近づいてきたへら鮒がくわせエサの「ヒゲトロ」を食う仕組み。セット釣りとはいってもある程度バラケエサに近づける意識が必要で、場合によっては食いアタリの半分近くがダンゴエサを食ってきても問題ありません。

そのためには、バラケエサをタナまで持たせることが大前提となります。ウドンセットのように開くバラケで寄せるのではなく、しっかりバラケをナジませてから釣りを組み立ててください。

タックルセッティング

仕掛けは基本的に強い方向でセッティングしてください。釣れないときに迷いを捨てるためにもセッティングは固定しましょう。

■仕掛け図

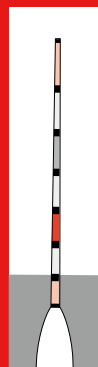
竿●8尺（規定最短）

ミチイト●（メーター規定）1号
（タナ30cm）0.8号

ハリス●上0.6号8cm、
下13cm 0.5号13cm

ウキ●パイプトップ
（メーター規定）ボディー6cm
（タナ30cm）ボディー5cm

ハリ●
（メーター規定）上7号、下5号
（タナ30cm）上6号、下5号



エサ落ちはトップ全体の4分の3以上が水面にでるよう設定する。

エサ持ちと開きを両立！

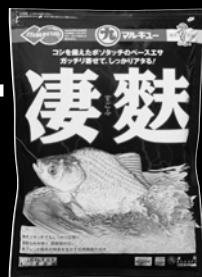
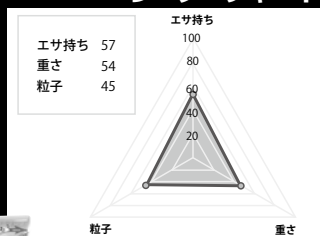
●バラケブレンド

「ダンゴの底釣り夏」100 cc+
水 150 cc

「バラケマッハ」200 cc+
「凄麩」200 cc



レーダーチャート

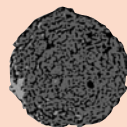


●作り方と打ち始め

「ダンゴの底釣り夏」100 ccをエサボウルに入れてそこに水150 ccを注ぐ。どろどろにして5分放置後、「バラケマッハ」200 cc、「凄麩」200 ccを入れる。ムラがないように大きく20～30回かき混ぜ、エサがまとまりだしたら基エサの完成。これを1/3に小分けして10回ほど押し練りをし、エアーを抜いて使い始める。これでウキが沈没するぐらいエサが持てばOK。持たないようならさらに押し練りで調整する。

エサの大きさとハリ

実寸大



推奨ハリサイズ＝7号

両ダンゴで釣り切れないときが出番

「ヒゲトロ」セットの チョーチン釣り

釣り方の基本

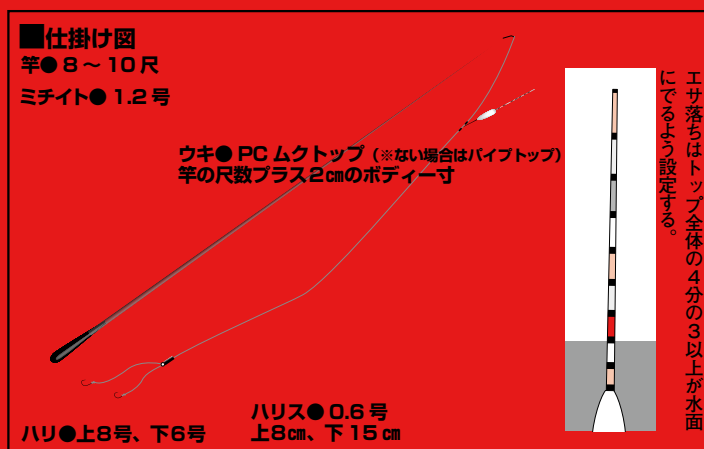
「ヒゲトロ」セットのチョーチン釣りは、浅ダナ釣りと同様に両ダンゴで釣れそうでなかなか釣り切れないときに有効な釣り方です。また、チョーチン釣りは一定のポイントにエサを入れやすいので、強固な時合で大釣りも可能です。

ダンゴエサに興味は示している（サワリはある）が、ダンゴエサそのものを食わないとき、ウキの動きでいえばサワリがあるのに食いアタリが少ないときこそこの釣り方の出番です。

バラケエサに近づいてきたへら鮒が近くにあるくわせエサの「ヒゲトロ」を食う仕組みなので、しっかりエサをタナまで持たせることが求められます。それにはしっかり持たせられるエサブレンドであること、適量のオモリを背負うウキを使うことがポイントとなります。

タックルセッティング

仕掛けは基本的に強い方向でセッティングしてください。釣れないときに迷いを捨てるためにもセッティングは固定しましょう。



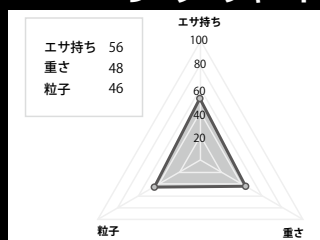
まとまりがよくしっかり持つ！

●バラケブレンド

「粘麩」100 cc+
「バラケマッハ」400 cc+
「凄麩」400 cc+
水 200 cc



レーダーチャート

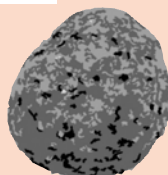


●作り方と打ち始め

「粘麩」100 cc、「バラケマッハ」400 cc、「凄麩」400 ccをエサボウルに入れて軽く混ぜ合わせたとこに水 200 ccを注ぐ。ムラがないように大きく 20～30 回かき混ぜ、エサがまとまりだしたら基エサの完成。これを 1/3 に小分けして 10 回ほど押し練りをし、エアーを抜いて使い始める。これでウキが沈没するぐらいエサが持てば OK。持たないようならさらに押し練りで調整する。

エサの大きさとハリ

実寸大



推奨ハリサイズ＝8号

STEP ① エサを調整する

作ったエサをそのまま使うのではなく、打ち始めから押し練りを加え、しっかりエサが持つ状態でスタートしてください。目安としては、ウキのトップ先端ギリギリまでナジむぐらいのエサ持ち加減です。次第に魚が寄ってきますと、徐々にエサ持ちが悪くなります。こういうときは、さらに押し練りを加えてエサが必ず持つように調整します。

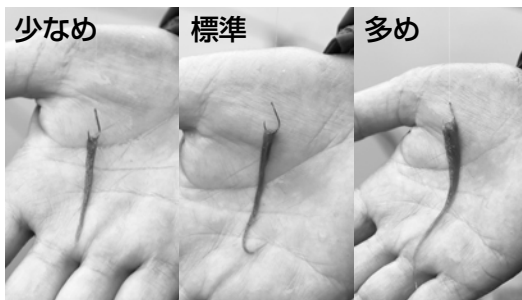
押し練り

手の甲側を使ってエサを押してエアーを抜くのが“押し練り”。エアーを抜くことでエサがまとまりエサ持ちがよくなる。この“押し練り”を繰り返してエサが持つようにする。



STEP ② 「ヒゲトロ」を掛ける量を調整する

「ヒゲトロ」を掛ける量の多少でアタリがでたりでなかったりもします。少なすぎて持ちが悪いことによる空振り、多すぎて食にくいことによってアタリがないほか、長すぎ短すぎでも同じようなことが起きますので、色々と付け方を試みましょう。



STEP ③ 縦誘いを入れる (チョーチン釣りのとき)

しっかりバラケエサを持たせることが大切ですが、極端に持ちすぎた場合は、竿先を持ち上げるように縦誘いを入れてみましょう。これでバラケ性が促進されへら鮎に興味を惹かせることができます。ただし、縦誘いでバラケエサが抜けては意味がないので注意してください。

「ヒゲトロ」 セット釣り

基本必須テクニック

「ヒゲトロ」の使い方

「ヒゲトロ」は盛期のセット釣りに向いたくわせ用トロロエサ。使用方法是水に浸してハリに引っ掛けるだけで、良質な繊維がしっかりとハリがかりします。チャック袋を採用しているので、開封後でも品質が安定。1度の釣行で使いきれなくても次回もそのまま使用できる。●内容量 18g

「ヒゲトロ」は品質をキープできるチャック袋を採用。



①袋からトロロを取り出す。長くて強い良質な繊維が特徴。



②使う分だけちぎって取り出す。残りはチャック袋に仕舞っておく。



③長い繊維は細かくちぎる。



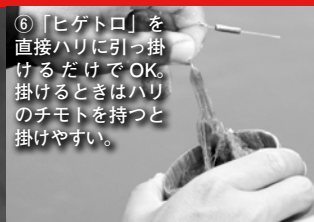
④ちぎった「ヒゲトロ」を手に乗せて水に浸す。



⑤軽く水を絞って小皿などに移す。



⑥「ヒゲトロ」を直接ハリに引っ掛けるだけでOK。掛けるときはハリの手モトを持つと掛けやすい。



ナジミ幅のキープを意識しよう

ペレット系 両ダンゴの底釣り

釣り方の基本

底釣りは独特の動きが楽しめ、ある意味へら鮒釣りで一番面白い釣り方とも言えます。盛期の底釣りはしっかりエサをナジませていかないとウワズリを招いたり、ウキが動きすぎて釣りづらくなります。スタート時から3〜4目盛りしっかりナジミ幅をだし、魚が寄ってきてからもこの3〜4目盛りのナジミ幅をキープするようにします。

このナジミ幅をキープするには、エサ付け圧（強さ）の強弱、エサの大きさをコントロールします。あくまでセッティングは固定したまま、エサ付けで調整してください。

魚が少ない（ウキの動きが静か）ときは大きめで圧は弱め、魚が多い（ウキがよく動く）ときは小さめで圧は強くなど、1投ごとにウキの動きを見ながらのエサ付けを意識してください。一番はナジミ幅をキープすること。これだけは頭に入れておきましょう。

タックルセッティング

仕掛けは基本的に強い方向でセッティングしてください。竿の長さは竿一杯（チョーチン）で底が取れる長さを選びましょう。ウキは大きめで、釣れないときに迷いを捨てるためにもセッティングは固定しましょう。

■仕掛け図

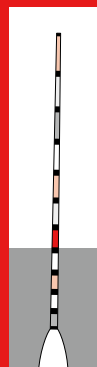
竿●8〜18尺
(竿一杯で底が取れるように)

ミチイト●1号

ウキ●パイプトップ（竹足）
竿の尺数プラス2cmの
ボディ寸

ハリ●上下5号

ハリス●0.5号 35cmと42cm



エサ落ちとはトップ全体の3分の2以上が水面にでるよう設定する。

集魚とエサ持ち抜群ペレット系ダンゴ

●エサブレンド

「ペレ道」100 cc+
「もちグル」50 cc+
「粘力」 付属スプーン 1 杯+
水 100 cc



+



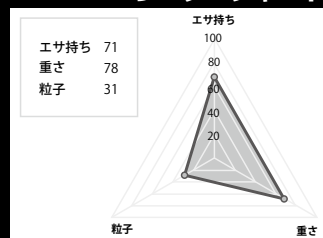
+



+



レーダーチャート

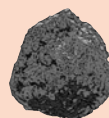


●作り方と打ち始め

「ペレ道」100 cc、「もちグル」50 cc、「粘力」付属スプーン 1 杯をエサボウルに入れ、そこに水 100 cc を注ぐ。ムラがないように大きく 20 回ほどかき混ぜ、ボウルの隅に寄せるようにしてしばらく放置。しっかり吸水したら基エサの完成。これを 1/3 に小分けして 10 回ほど押し練りをし、エアーを抜いて使い始める。これで 3～4 目盛りのナジミ幅ができれば OK。ナジミが少ないようならさらに押し練りで調整する。

エサの大きさとハリ

実寸大



推奨ハリサイズ=5号

●タナ取り

底釣りはタナ取り（水深を測ること）がすべてといわれるほどタナは重要です。釣りを始める基準であり、地形変化や底の状態の変化（釣っている途中でヘドロやゴミが取り除かれて水深が変わること＝底が掘れた）を知るための唯一の手段です。このタナ取りをおろそかにしては底釣りは釣れません。動画でわかりやすく解説しているのでチェックしましょう。



【実演】タナ取り方法

STEP ④ エサを調整する

作ったエサをそのまま使うのではなく、打ち始めから押し練りを加え、しっかりエサが持つ状態でスタートしてください。目安として、ウキのナジミ幅が3～4目盛りでエサ持ちを心がけます。次第に魚が寄ってきますと、徐々にエサ持ちが悪くなりますが、そのときはさらに押し練りを加えて3～4目盛りのナジミ幅をキープするように調整します。

押し練り

手の甲側を使ってエサを押してエアーを抜くのが“押し練り”。エアーを抜くことでエサがまとまりエサ持ちがよくなる。この“押し練り”を繰り返してエサが持つようにする。



STEP ⑤ ナジミ幅を意識しよう

底釣りでは、ウキのナジミ幅が重要な情報源です。エサ持ちの有無だけでなく、底が掘れた（ヘドロなどが取れること）、ハリスが絡んだなどを知る手がかりです。両ダンゴの底釣りの場合、3～4目盛りのナジミ幅がでるのが基準です。これよりナジミが少ない場合は、エサが持っていないかタナをはわせすぎていることになります。逆に多い場合は、エサが底から切れている、ハリスが絡んでいる可能性があります。そして寄る魚量が増えても同じナジミ幅をキープできるようにエサを調整（押し練り、手揉み、エサの大きさ）して釣っていきます。

両ダンゴの底釣り

基本必須テクニック

STEP ① ウキの選択

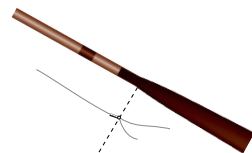
ウキのサイズは竿の長さ（＝水深）によって変わってきます。竿の尺数プラス2cmが基準となります。前後1cmのサイズなら問題ありませんが、極端に小さいものや大きいものは避けましょう。

竿の長さごとのウキのボディサイズ

8尺	10 cm	13 尺	15 cm
9尺	11 cm	15 尺	17 cm
10 尺	12 cm	16 尺	18 cm
11 尺	13 cm	18 尺	20 cm
12 尺	14 cm		

STEP ② 仕掛けの長さを決めておこう

タナが生命線の底釣り。釣っている途中でタナがおかしくなることもあります。理由としては“底が掘れた”ことが多いですが、仕掛けのミチイトの伸び縮みが原因のこともあります。それを判断するためにも仕掛けの長さを把握しておきましょう。



たとえば、スイベルがくる位置を握り上部、竿との継ぎ目と決めておく。

STEP ③ スタートのタナ設定

エサが確実に底に着く状態で打ち始めるために、タナ取りで決めた上バリトントンの位置から5cmズラした（深くした）タナから始めましょう。そして、実際にエサ打ちをして3～4目盛りのナジミ幅がでることを確認してください。ナジミ幅が多いときはエサが底から切れている、逆に少ないときは這わせすぎている可能性があります。

大流行セットの好機は9月後半から!!

“粒もじバラケ”の ウドンセット

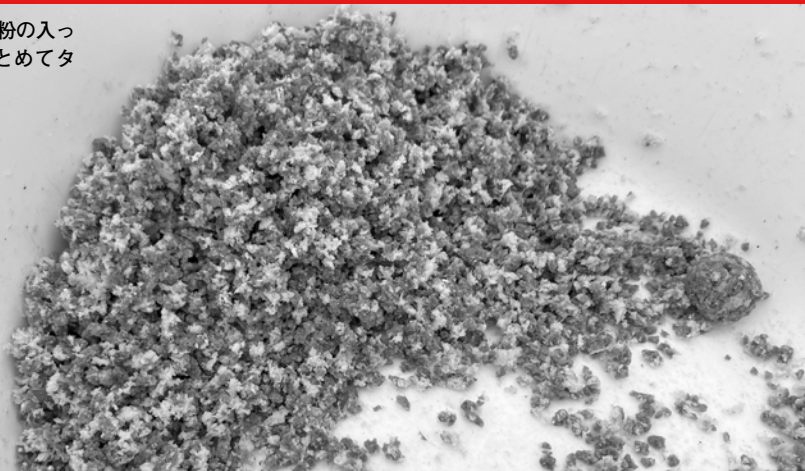
釣り方の基本

近年大流行している“粒もじバラケ”。大会などでもかなりの実績をあげており、誰しも一度は試したことがあるのではないだろうか？ 明確に釣れる理由が分からずとも、なぜかアタリが増える、釣れると感じている人も多いだろう。

この“粒もじバラケ”の最大の特徴はさなぎ粉が入っていないことである。へら鮒を集魚するには有効なさなぎ粉ではあるが、無選別に魚を寄せてしまう。食い気のある魚だけでなく、バラけた粒子だけ吸うようなやる気のない魚も寄せてしまうのだ。一方“粒もじバラケ”はさなぎ粉が入っていないことから、明らかに「粒戦」を選んで食べるやる気のある魚だけを狙って釣ることを可能にしたのである。

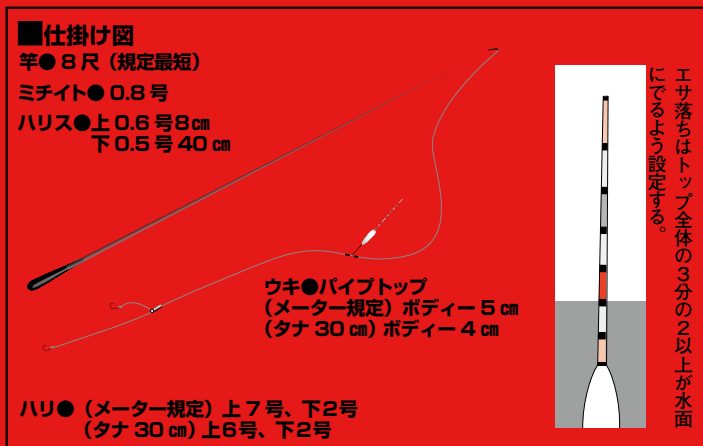
ポイントは、タナまで「粒戦」を届ける意識を持つこと。だからかならず一旦はナジませること。そこからエサが開いて「粒戦」がこぼれ落ちる。それに食い気のあるへら鮒が反応しアタリを導き出すイメージだ。また、やる気のある魚をターゲットにしているので比較的アタリは明確になるので釣りやすい。

「粒戦」をさなぎ粉の入っていない魅材でまとめてタナへ届ける。



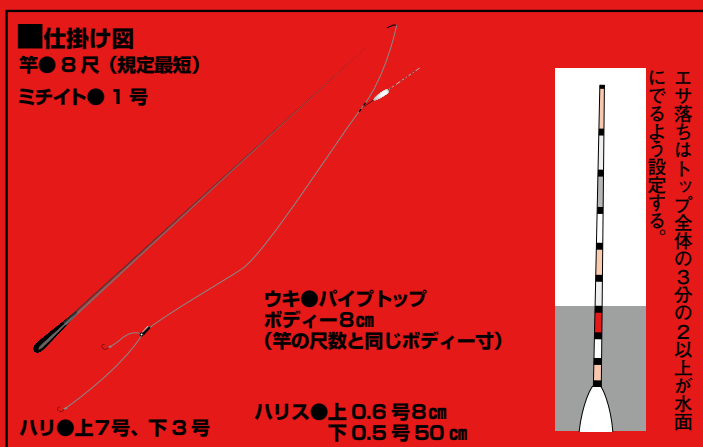
浅ダナ釣りのタックルセッティング

タックルは通常の浅ダナウドンセットと同じで問題ないが、開きのあるバラケなので下ハリスが若干長めになる傾向。



チョーチン釣りのタックルセッティング

タックルは通常のチョーチンウドンセットと同じで問題ないが、開きのあるバラケなので下ハリスが若干長めになる傾向。



“粒もじバラケ”のウドンセット

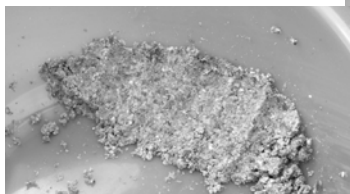
基本必須テクニック

STEP ① エサを調整する①

作ったエサをそのまま使うのではなく、打ち始めから押し練りを加え、しっかりエサが持つ状態でスタートしてください。目安としては、ウキのトップ先端ギリギリまでナジむぐらいのエサ持ち加減です。次第に魚が寄ってきますと、徐々にエサ持ちが悪くなります。こういうときは、さらに押し練りを加えてエサが必ず持つように調整します。

押し練り

手の甲側を使ってエサを押してエアーを抜くのが“押し練り”。エアーを抜くことでエサがまとまりエサ持ちがよくなる。この“押し練り”を繰り返してエサが持つようにする。



STEP ② エサを調整する②

このブレンドはまとまりにくいのでエサ付けが難しいと感じることもあります。そんな場合はブレンドに「軽麴」50ccをプラスします。また経時変化によるネバリがきつくなったときも「軽麴」を足して調整します。また、最初から「軽麴」をブレンドすると経時変化のネバリ感が抑えられやすくなります。



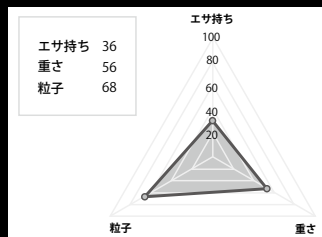
STEP ③ ハリス長について

開くバラケエサであること、さなぎ粉が入ってないので集魚力が弱めなことからハリスは長めになる傾向があります。通常のウドンセットよりプラス5～10cmを目安に設定するといいでしょう。

大流行の“粒もじ”ブレンド

●バラケブレンド

「粒戦」100 cc+
「もじり」100 cc+
「BB フラッシュ」100 cc+
水 100 cc+



+



+

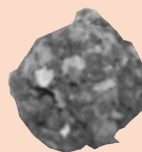


●作り方と打ち始め

「粒戦」100 cc、「もじり」100 cc、「BB フラッシュ」100 ccをエサボウルに入れて軽く混ぜ合わせたところに水 100 ccを注ぐ。それを 20～30 回かき混ぜてムラなく仕上げ吸水させるために 10 分ほど放置する。これが基エサで、使うときは 1/3 に小分けして 10 回ほど押し練りをし、エアーを抜いて使い始める。トップ先端までしっかりナジミができれば OK。ナジミが浅ければエサ付けの圧を強くする。

エサの大きさとハリ

実寸大



推奨ハリサイズ＝7号

●チョーチン釣り

「カクシン」400 cc+ **「コウテン」200 cc+**
「カルネバ」100 cc+ **水 250 cc+** **「凄魅」200 cc**

●DATE / 8月12日(月) 三名湖 18尺チョーチン 46 kg (86枚)

「凄魅」400 cc+ **「カクシン」200 cc+** **「カルネバ」100 cc+**
「浅ダナー本」100 cc+ **水 300 cc+** **「浅ダナー本」200 cc**

●DATE / 8月25日(日) 朝日池 9尺チョーチン 27 kg (51枚)

「凄魅」300 cc+ **「バラケマッハ」300 cc+**
「カルネバ」200 cc+ **水 200 cc+** **「BB フラッシュ」200 cc**

●DATE / 8月27日(火) 椎の木湖 8尺チョーチン 41.47 kg (37枚)

「カクシン」400 cc+ **「カルネバ」200 cc+**
「バラケマッハ」200 cc+ **「GD」50 cc+** **水 250 cc**

●DATE / 9月8日(日) 三名湖 18尺チョーチン 43 kg (77枚)

「ガッテン」400 cc+ **「浅ダナー本」200 cc+**
「コウテン」200 cc+ **水 200 cc+** **「BB フラッシュ」100 cc**

●DATE / 9月11日(水) 間瀬湖 12尺チョーチン 65.7 kg (120枚)

「カルネバ」300 cc+ **「コウテン」200 cc+**
「凄魅」200 cc+ **水 200 cc**

●DATE / 9月22日(日) 千代田湖 10.5尺チョーチン 42枚

「カクシン」400 cc+ **「コウテン」400 cc+**
水 220 cc+ **「BB フラッシュ」100 cc**

●DATE / 9月22日(日) 円良田湖 11尺チョーチン 30 kg (50枚)

「カクシン」400 cc+ **「コウテン」200 cc+** **「BB フラッシュ」200 cc+**
水 250 cc+ **「バラケマッハ」200 cc**

●DATE / 9月29日(日) つつじ池 16.5尺チョーチン 42 kg

両ダンゴ

2024 実績アリの

爆釣ブランド

※「へら鮎天国」釣果情報より

●カッツケ釣り

「カクシン」100 cc+ 「ガッテン」100 cc+ 「凄魅」100 cc+
「バラケマッハ」100 cc+ 「ふぶき」100 cc+ 水 120 cc

● DATE / 7 月 14 日 (日) 王仁公園新池釣センター 7 尺カッツケ 124 枚

「カクシン」400 cc+ 「カルネバ」200 cc+
「バラケマッハ」200 cc+ 水 250 cc

● DATE / 9 月 13 日 (金) 筑波白水湖 8 尺カッツケ 39.4 kg (115 枚)

「カクシン」200 cc+ 「コウテン」100 cc+
「BB フラッシュ」100 cc+ 水 100 cc

● DATE / 9 月 16 日 (月) 平松へら鮎センター 7 尺カッツケ 200 枚

●メーター釣り

「カクシン」400 cc+ 「カルネバ」200 cc+
水 250 cc+ 「コウテン」200 cc

● DATE / 9 月 1 日 (日) 新潟ひょうたん池 8 尺 1 m 90 枚

「カクシン」400 cc+ 「浅ダナー本」200 cc+ 「コウテン」200 cc+
「BB フラッシュ」200 cc+ 水 380 cc+ 「カルネバ」200 cc

● DATE / 9 月 15 日 (日) 清遊湖 9 尺 1 m 48.6 kg (90 枚)

「カクシン」200 cc+ 「カルネバ」200 cc+
「バラケマッハ」200 cc+ 水 200 cc+ 「浅ダナー本」100 cc

● DATE / 10 月 11 日 (金) 筑波流源湖 12 尺 1 m 55.4 kg

今シーズンもベースは不動。

両ダンゴ釣りのシーズン開幕。

活性が高まりきっていない今の時季でも、

「カクシン」ベースなら安心。

練り込まなくても優れたハリ持ちを発揮するため、

エアーの含みを生かした

エサ使いが可能。

付け方ひとつで幅広く対応でき、

最後までしっかりと芯が残って

明快な食いアタリを導きます。

●カクシン 400g(チャック袋)